

小学校 地域教育プログラム



地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立前浜小学校

氏名・年度 61年度 松本 えりか

1 自校の教育課題

- ・自分で考え行動する。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・学校教育に深い理解と協力的な態度を示し、学校教育に寄せる期待と関心が高い。
- ・PTA活動も熱心で、集会への出席率は極めて高い。
- ・多くの伝統芸能が受け継がれている。

弱み

- ・高年齢化、限界集落があり人口が減少している。

地域や保護者のニーズ

- ・地域の農業・漁業・祭り・伝統芸能のよさを知ってもらい、後継者を育てたい。
- ・やめるのは簡単だが、難しいことを続けていくことに意味がある。
- ・元気な子どもたちの姿を見たい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 ふれあい体験学習～小中9年間通して行う漁業体験～

内容 子どもたちに地域の漁業に興味をもってもらうために、地域の方と連携して活動する

自分の役割

- ・漁協の方とつながり、学校の要望も提案してふれあい体験学習の計画を立てる。
- ・マンネリ化した活動を再構築し、地域を知る活動として活動を工夫する。

持続可能性の保障

- 小中通して9年間の継続的な取組が24年続いている。今後も漁協の力を借りて、連携しながら活動を続けていく。
- 総合的な学習・生活科の学習の一つとして位置づけている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

- ・地域の海を身近に感じる事ができた。
- ・漁師という仕事に興味をもてた。
- ・体験に満足できた。

○地域や保護者のメリット

- ・今年は、子どもたちがたくさん質問してくれてうれしかったという満足の声が聞かれた。
- ・活動に変化があつてマンネリ化が解消された。

次年度に向けて（課題）

- ・小中学生の発達段階に応じた活動を取り入れたり、子どもの主体性を大切にし、代表が計画会議に参加ししていく活動を考えていく。

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立両尾小学校

野田一雄・60年度

1 自校の教育課題

- ・学習態度が受け身の児童が多い。
- ・思いやりのない話し方や接し方をする児童がいる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・地域・保護者が学校に協力的である。
- ・地域内には多様な人材や教育に有効な地域資源がある。

弱み

- ・人材バンク的な組織が整備されていない。

地域や保護者のニーズ

- ・児童数の減少等により今年度末で閉校となるが、今後も地域の核となる組織や活動を維持していきたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	地域を題材とした民話劇の上演
内容	地域のよさを再認識し、愛着を深めるために、地域を題材とした民話劇を文化祭及び閉校記念式典の際に上演する。
自分の役割	民話劇のシナリオを作成する。 劇の演出方法や大道具等について検討する。 大道具の作製。 児童への演劇指導。
持続可能性の保障	○3・4年生は、佐渡を題材とした民話劇を4年間継続して文化祭で上演した。 ○3・4年生は、総合的な時間の学習で、佐渡の民話を題材とした学習を5年間継続して行っている。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none">・地域を題材とした民話を上演したことで、地域への愛着が増した。・大勢の観客の前で演じることで、表現力が増した。	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none">・地域の民話（創作民話）を観ることで、地域のよさや佐渡の民話の素晴らしさを再認識することができた。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none">・両尾小学校は閉校となるが、統合先の学校においても、何らかの形で「佐渡の民話」の学習を継続してほしい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 両津小学校
氏名・年度 新発田 靖・58年度

1 自校の教育課題

佐渡に貢献できる子どもを育てる

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・佐渡の玄関口であり、公共施設等が充実している。
- ・祭りは頻繁にあるが地域の行事への参加率は全国比で 10.0 ポイント低い。(全国学力学習状況調査6年の結果)
- ・地域の清掃活動等の地域に対する奉仕活動の経験が少ない。「自分によいところがあると思うか」という回答は全国比で 24.3 ポイント低い。(同上6年の結果)

地域や保護者のニーズ

- ・問題行動や不登校の解消を望んでいる。→自己有用感の向上
- ・子どもの活躍の場を大事にしている。→活躍の場の設定
- ・佐渡を担う人材の育成を期待している。→佐渡に貢献できる子の育成

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	みんなできれいな「おんでこドーム」に！
内容	・両津小学校卒業の中学生と小学生が一緒になって、校区にあるイベントの会場となる「おんでこドーム」や周辺の公園の清掃活動を行う。
自分の役割	・両津中学校区社会性育成会議に参加し、1中学校5小学校の清掃活動の推進に努める。 ・メディアに働きかけ、地域の盛り上げに努める。
持続可能性の保障	・それぞれの学校の状況に合わせた無理のない清掃活動を小中連携で実施する。

4 成果と次年度に向けての取組

成果 3小学校に中学生が参加して実施できた。	
○子どものメリット 地域のために活動できたという喜び 中学生とのふれあい	○地域や保護者のメリット 地域をきれいにできた
次年度に向けて 実施時期を地域の要望に合わせて設定したい。そして、地域の方とも一緒にできるようにする。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 両津小学校
氏名・年度 齋藤 光夫・59年度

1 自校の教育課題

佐渡に貢献できる子どもを育てる

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・佐渡の玄関口であり、公共施設等が充実している。
- ・祭りは頻繁にあるが地域の行事への参加率は全国比で10.0ポイント低い。(全国学力学習状況調査6年の結果)
- ・地域の清掃活動等の地域に対する奉仕活動の経験が少ない。「自分によいところがあると思うか」という回答は全国比で24.3ポイント低い。(同上6年の結果)

地域や保護者のニーズ

- ・問題行動や不登校の解消を望んでいる。 → 自己有用感の向上
- ・子どもの活躍の場を大事にしている。 → 活躍の場の設定
- ・佐渡を担う人材の育成を期待している。 → 佐渡に貢献できる子の育成

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	地域の方々とWINWINを生む学校
内容	佐渡市の「学校・家庭・地域の連携促進事業」を活用し、学校支援地域本部地域コーディネーターを中心に地域人材の教育活動への参画（学習支援、クラブ活動指導）を充実させ、学校が地域を元気にする一役を担う。
自分の役割	地域連携担当教員と地域コーディネーターとの連携を支援する。
持続可能性の保障	来校したボランティアが気持ちよく取り組めるよう環境を整える。 取組を学校だよりで伝え、協力者の輪が広がるよう努める。

4 成果と次年度に向けての取組

成果 学習支援、クラブ活動指導に関わった地域の人が自己有用感を得た	
○子どものメリット 華道、茶道の体験と技能習得	○地域や保護者のメリット 技能伝授、子供の成長への喜び
次年度に向けて 学習支援ボランティアによる月曜6限教室（パワーアップⅡ）の開設準備	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 両津小学校
氏名・年度 椎 一夫・元年度

1 自校の教育課題

佐渡に貢献できる子どもを育てる

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・佐渡の玄関口であり、公共施設等が充実している。
- ・祭りは頻繁にあるが地域の行事への参加率は全国比で 10.0 ポイント低い。(全国学力学習状況調査 6 年の結果)
- ・地域の清掃活動等の地域に対する奉仕活動の経験が少ない。「自分によいところがあると思うか」という回答は全国比で 24.3 ポイント低い。(同上 6 年の結果)

地域や保護者のニーズ

- ・問題行動や不登校の解消を望んでいる。→自己有用感の向上
- ・子どもの活躍の場を大事にしている。→活躍の場の設定
- ・佐渡を担う人材の育成を期待している。→佐渡に貢献できる子の育成

3 地域教育プログラム 1 取組の計画

活動名	しゃきっと教室との交流
内容	・両津小学校の空き教室を活用して行われている「両津地区しゃきっと教室」受講生との交流
自分の役割	・交流の企画・運営（学校職員への説明） ・しゃきっと教室担当市職員・サポーターとの連絡・調整。
持続可能性の保障	・教育計画や年間行事予定，及び P T A 活動等への位置付け。 ・各種たより・ホームページ等による情報発信。

4 成果と次年度に向けての取組

成果 両津小学校と両津中学校の保護者参加による懇談会が実施できた。

○子どものメリット

- ・生涯を通して学ぶことへの意識
- ・学習発表（目標達成）の機会
- ・感動体験の価値（経験）共有の場
- ・思いやる体験の場

○地域や保護者のメリット

- ・学びへの意欲・励み
- ・子供や学校への理解，深化
- ・地域行事や社会生活への参画

次年度に向けて

- ・参加してよかったと思える企画の提案や，教育活動へより効果的な参画の検討

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立加茂小学校

氏名・年度 末武 千人・59年度

1 自校の教育課題

・他者との関係における、円滑な調整など、コミュニケーション力に課題が見られる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念を反映させた、学校経営を展開するよう努めている。 ・「夕づる集会」など、非常に特色ある教育活動が行われている。 ・加茂湖周辺の探索など、先進的に取り組んでいる部分がある。 ・「キラキラタイム」など縦割り班活動を通じ、他者を思いやる心の育成に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の主体的参加という意味で、今後発展の余地がある。 ・他校と比較し、地域の伝統芸能などについての学習は、今後開拓の余地がある。 ・特別な支援を必要とする方や、弱い立場にある方たちに対する理解と行動。

地域や保護者のニーズ

・地域のコミュニティに参加し、少しでも自立した生活がおくれるようになってほしい。

3 地域教育プログラム1取り組みの計画

実践名	自立と社会参加につながる指導計画と支援
内容	特別支援学級に在籍する児童を対象とし、地域につながりをもたせるように、特別支援学級における単元の展開を工夫したり、通常の学級における活動を支援したりする。
自分の役割	特別支援学級では、主に生活単元学習において、地域とつながりがもてるような単元を展開する。通常の学級では、生活科や総合的な学習の時間において、児童が適応的に活動に参加できるよう、間接・直接的に支援を行う。
持続可能性の保障	学習内容に地域とのつながりをもたせるためには、生活単元学習のような、教科・領域を合わせた指導の方が、指導形態として適していると言える。活動を維持・発展させていくためには、保護者の理解と協力が不可欠なのであるから、連絡帳・たより・通知表・個別の指導計画などを通じ、実践の成果を示していく。

4 成果と次年度に向けての取組(2月末に記入して提出)

成果	
<p>○子どものメリット</p> <p>地域の良さを知ることができたとし、地域の方と上手くコミュニケーションが取れた達成感を味わわせることができた。</p>	<p>○地域や保護者のメリット</p> <p>特別な支援の必要な児童が、地域に関する学習でも頑張っている姿を見ていただくことができた。</p>
次年度に向けて	
生活単元学習の内容を、もっと充実させていきたい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立加茂小学校

氏名・年度 土屋勝願 (H5)

1 自校の教育課題

郷土を愛し、夢と誇りをもつ子どもを育てる

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・山と海に囲まれ自然環境に恵まれている。・学校周辺に公共施設が集中し恵まれた環境にある。	<ul style="list-style-type: none">・校区が広く集落が点在している。・保護者の意識や価値観，学校に対する期待や要望が多様化し，連帯感や協調性が育ちにくい環境にある。

地域や保護者のニーズ

・地域や佐渡に愛着と誇りをもって，地域に貢献できる人になってほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	「夕づる集会」を成功させよう！
内容	<ul style="list-style-type: none">・全国の学校で唯一行われていることに誇りを持ち，特色ある教育活動である「夕づる集会」の充実と発展に努める。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">・「夕づる集会」の運営・「はばたきタイム」での位置付け，見直し，改善・佐渡の文化，芸能，伝統に関する鑑賞会等の開催・地域への発信
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none">・今年で33回目を迎える。子ども自身が，誇りをもって公演しようとする意欲を高めていく。

4 成果と次年度に向けての取組

成果 一人一人が自分の役割を理解し、精一杯発揮しようとする姿が全面に見られた。

○子どものメリット

- ・伝統ある「夕づる」集会を成功させようとする誇り・責任感が育まれた。
- ・成就感、満足感を味わうことができた。

○地域や保護者のメリット

- ・伝統が引き継がれること。
- ・全校が一つになって演じる姿に、感動すること。期待を寄せている。

次年度に向けて

- ・より多くの保護者や地域の方に観ていただけるよう、地域への発信、環境整備等の改善に努める。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立相川小学校
氏名・年度 名古屋祥吾・H 26

1 自校の教育課題

- ・相川の歴史や文化のよさをあまり知らない。
- ・自己主張することを苦手としている。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・強み…立浪会や無名異焼きの窯元さんなど，人材が豊富である。
- ・弱み…自己有用感が低い。コミュニケーションをとることを苦手としている。

地域や保護者のニーズ

- ・世界文化遺産に登録されることを願っている。
- ・江戸時代に鉱山の町として栄えた相川に誇りをもってほしい。

3 地域教育プログラム 1 取組の計画

活動名	佐渡金銀山・京町通り・奉行所ガイド
内容	佐渡金銀山世界文化遺産登録を目指して，総合的な学習の時間に佐渡金銀山やその関連施設についてのガイドを行う。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡金銀山に関連する施設への引率。 ・総合的な学習の指導計画の見直し，修正。 ・ガイドを行う施設への連絡等。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡金銀山でのガイドは，世界遺産登録後も行うことができる。 ・ALTと協力し，外国の方にも案内をしている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
<ul style="list-style-type: none"> ○子どものメリット ・相川のよさに気付くことができた。 ・相手の目を見て伝えようとする姿勢が身に付いた。 ・歴史のある相川の施設を訪れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や保護者のメリット ・観光客の方が喜んでくれた。 ・子どもが地域に愛着を持った。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの実施を保護者だけでなく，地域の方にも宣伝し，集客率を上げる。 ・相川のよさを地元の人にも伝え，地域との交流を図る。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 沢根小学校
氏名・年度 坂井一美・58年度

1 自校の教育課題

- ・自分に自信をもたせるとともに自己有用感を高める。
- ・人間関係調整能力を高める。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加率が高い。 ・地域が学校に協力的である。 ・地域に多彩な人材がいる。 	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・地域をよくしようとする子が少ない。 (全国学テ調査6年生 肯定評価50%) ・地域に貢献する活動が少ない。 ・活動を検討する組織がない。
---	--

- 地域や保護者のニーズ**
- ・少子高齢化が進んでいることから、地域の活性化を図りたい。
 - ・地域の伝統芸能の保存と後継者の維持を図りたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	「地域の茶の間」交流活動
内容	地域のお年寄りが集う「地域の茶の間」で児童が学習成果を発表し、お年寄りとの交流を深める。
自分の役割	「地域の茶の間」を主催する担当者との連携。 職員に計画を説明し、全校体制で取り組む。 情報公開に努め、活動の価値を高める。
持続可能性の保障	○発表内容を年間指導計画に位置づける。 ○担当する社会福祉課と綿密な打ち合わせを実施する。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに喜んでもらえて自己有用感が得られた。 ・学習成果発表の場が増えた。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが子どもたちとふれあうことで楽しいひとときを過ごせている。 ・次回の「地域の茶の間」に期待するお年寄りが増えた。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の茶の間」での発表を年間指導計画に位置づけて各学年で計画的に学習指導を進める。 ・お年寄りや担当者の想いを聞き、児童自身がどんな発表をしたらよいか考える機会を設ける。 	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立河原田小学校
宮川秀一郎・61年度

1 自校の教育課題

- ・自分の考えや意見を人前で自信を持って発表できない。
- ・他人と接することが苦手で、地域であいさつを元気よくできない。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者は協力的である。 ・地域住民は、学校に誇りをもっていて、学校に対する注目度が高い。 	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に元気よく挨拶ができない。 ・挨拶に対する保護者・子どもの意識が低い。
--	---

地域や保護者のニーズ

- ・地元の商店街の空き店舗が増え、イベント等で地域の活性化を図りたい。
- ・伝統校として、地域と一体になった教育活動を積極的に進めてもらいたい。
- ・地域や保護者にも登下校中、子どもたちから進んで元気にあいさつをして欲しい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	あいさつ運動を盛り上げる
内容	中学校区での挨拶運動、毎月の大人挨拶運動、毎週水曜日の子ども挨拶ボランティア3本柱に参加し、活動を活性化させ、子どもたちが進んで地域の人へあいさつができるようにする。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭として、毎日玄関前に立って、天候にかかわらず元気の良い明るい挨拶をしている姿を児童に示す。 ・保護者・地域へ大人あいさつ運動への参加を積極的に呼びかける。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども挨拶ボランティアは、河小の子どもたち〈総務委員会〉の発案で行われている。 ・中学校区でも、当校の発案で小中学校5校が挨拶運動に取り組んでいる。

4 成果と次年度に向けての取組〈2月末に記入して提出〉

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に挨拶ができることで、地域も人からも声をかけてもらえる。 ・挨拶のできる子は、何事にも自信を持って取り組む子どもが増えた。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方があいさつしてくれるようになり、子どもを見守る雰囲気醸成された。 ・大人挨拶ボランティアに参加してくれる保護者が多くなった。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができるようになってきた子が少しずつではあるが、増えてきた。特に低学年の子どもが顕著である。さらに学年が上がってもできる子が増えるように次年度以降も継続して取り組んでいきたい。また、今後も学校課題のひとつとして、地域や保護者にも学校便りやホームページ、学校関係者評価委員会、民生委員・少年補導委員との懇談会等でも取り上げ、各種方面から更に協力を得られるようにする。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立河原田小学校
氏名・年度 60年度 松本 真一郎

1 自校の教育課題

・自主的に物事を行うことに弱さが見られる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

・地域が学校に協力的である。
・地域に多彩な人材がいる。

弱み

・地域に貢献する活動が少ない。

地域や保護者のニーズ

・地域の文化を守り、地域を活性化させていきたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名

博物館クイズブックを作成しよう

内容

子どもたちへ地域にある文化や文化財に興味をもってもらうために、博物館のクイズブックを作っていく。

自分の役割

佐渡博物館と連絡を取り、博物館の事業に協力する。
リピーターが出るような博物館クイズブックを作成する。
佐小研社会科部と連携する。

持続可能性の保障

- 年間に数回佐渡博物館と連絡を取り、佐渡博物館の意向をお聞きする。
- 佐小研社会科部有志の会を立ち上げ、佐渡社会科授業をする会、ルネス社会科部に協力していただき、年間を通してクイズブックを検討していく。
- データを各学校へ送付し、事前資料として活用してもらう。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

・遠足のコースに入れて盛り上がった。
・島外の修学旅行生も喜んでクイズを解いていた。

○地域や保護者のメリット

・遠足後、保護者と一緒にもう一度博物館を訪れる人が何組もあった。
・来館者が増加。

次年度に向けて

・佐渡博物館、相川郷土博物館、小木民俗博物館をつなぐ方法を提案し、子どもたちや地域、保護者、佐渡観光旅行者が博物館へ興味関心をもち、佐渡に関心をもってもらえるような取組を考えていく。
・佐渡博物館の昔の建物コーナーの見学資料を作成していく。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立八幡小学校
氏名・年度 齋藤 千賀子 (58年度)

1 自校の教育課題

- ・地域とともに歩む、明日を楽しみにできる学校づくり
- ・地域に関わる問題解決的学習の中で、知識や技能を活用し、郷土愛を育む。

2 地域教育プログラムに向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	自校の弱み
・「八幡・銀杏の会」や「自治会」が地域活性化や児童の健全育成に熱心。	・地域産業、伝統文化の単元は進んでいるが、理解・表現で終わっている。

地域や保護者のニーズ

地域住民の高齢化や児童数の減少が予想される中、地域の活力が低下しないよう、様々な連携を求めている。

3 地域教育プログラム 1 取組の計画

活動名	八幡を誇りに思う子の育成 ～チューリップ大作戦への参加を通して～
内容	八幡・銀杏の会主催の「チューリップ大作戦」に児童・保護者が全員参加し、球根植え付け作業に協力する。
自分の役割	・八幡・銀杏の会、自治会との事前打合せを行い、事前準備等、連絡調整を行う。 ・実施計画案を作成し、職員への周知を図る。 ・実施後の成果や課題を集約し、次年度に生かす。
持続可能性の保障	・「チューリップ大作戦・八幡芋煮会」は、八幡・銀杏の会の恒例行事として毎年行われる。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット	○地域や保護者のメリット
・自分たちが作業に関わったことで春、八幡地区を飾るチューリッププランターを見たとき、自己肯定感や地域貢献の意識が高まる。	・八幡・銀杏の会の活動への理解や関心が高まり、次年度への協力体制を整えることができた。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ大作戦の活動は球根の植え付けだけでなく、約 2000 個のプランターを八幡地区に並べる作業や回収作業、球根の処理などもある。チューリップ大作戦の年間の活動を随時掲示板に写真等で紹介し、児童の意識を高める。 ・チューリップ大作戦の活動や、そこに関わる銀杏の会の方々の思いをもとに道徳の授業を行えるようにしたい。 ※指導学年や実施時期等を指導計画に位置付ける。 ※設置作業や回収作業の様子を映像に撮り、授業の際の資料にできるようにする。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立八幡小学校
氏名・年度 大蔵 武彦 (H9)

1 自校の教育課題

- ・「地域とともに歩む 明日を楽しみにできる学校づくり」
- ・地域に関わる問題解決的学習の中で、知識や技能を活用し、郷土愛を育む。

2 地域教育プログラムに向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・「八幡・銀杏の会」や「自治会」が地域活性化や児童の健全育成に熱心。	自校の弱み ・地域産業、伝統文化の単元化は進んでいるが理解・表現で終わっている。
---	---

地域や保護者のニーズ

地域住民の高齢化や児童数の減少が予想される中、地域の活力が低下しないよう、様々な連携を求めている。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	コラボレーション八幡館 ～お散歩リーフレット～
内容	地区内にある観光ホテル「八幡館」と連携し、小6年生「国語：ようこそ私たちの町へ」で作成したリーフレットを設置する。
自分の役割	・八幡館の承諾 ・観光客のニーズの把握と児童への伝達する場の設定(講師招聘) ・国語として、リーフレット作成指導
持続可能性の保障	・6年生の国語(1学期)に位置付けられているので、毎年継続して取り組める。 ・リーフレットの設置場所は、八幡館を中心に、その他の場所へも広げられる。

4 成果と次年度に向けての取組(2学期末に記入して提出)

成果	
○子どものメリット ・作製したリーフレットが、実際に活用されるため、作成意欲が高まる。	○地域や保護者のメリット ・八幡館周辺の紹介になり、観光客の満足度が高まる。
次年度に向けて ・リーフレットで扱うテーマを変えることで、継続して地域と連携できる活動を開発することができた。様々な観光客を対象したリーフレットを作成・蓄積していきたい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立八幡小学校
氏名・年度 仲田一雅（17年）

1 自校の教育課題

「地域とともに歩む 明日を楽しみにできる学校づくり」
地域貢献につながる「学力向上」と郷土愛

2 地域教育プログラムに向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・「八幡・銀杏の会」や「自治会」が地域活性化や児童の健全育成に熱心。	自校の弱み ・地域産業、伝統文化の単元化は進んでいるが理解・表現で終わっている。
---	---

地域や保護者のニーズ

地域住民の高齢化や児童数の減少が予想される中、地域の活力が低下しないよう、様々な連携を求めている。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	八幡を誇りに思う児童の育成 ～八幡芋を育て、食する活動を通して～
内容	○八幡・銀杏の会の方の助力を得ながら、八幡芋を育て、芋煮会や八幡芋アイスクリーム・八幡芋まんじゅう作りを行う。 ○八幡芋農家の方から八幡芋の栽培の工夫や農家としての思いを教わる。
自分の役割	・八幡・銀杏の会の方や八幡芋農家の方との連絡調整 ・草取りや肥料やり、収穫の際の畑への引率 ・八幡芋農家のことについて教材研究を行う。
持続可能性の保障	○芋煮会が地域との交流の場として、毎年行われる。

4 成果と次年度に向けての取組（2学期末に記入して提出）

成果	○子どものメリット ・地域の方からお話を聞いたり、教わったりする機会が多数あり、地域のよさを実感することができた。	○地域や保護者のメリット ・地域のよさの再実感
次年度に向けて	・今年度の「八幡芋」の学習成果を次年度に引き継ぐ。 ・今年度は地域の方々のお世話になることが多かったため、次年度は地域貢献の視点をより強くもち、実践に取り組んでいく。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立金井小学校
 氏名・年度 高橋 高志 (平3)

1 自校の教育課題

- ・電子メディアと適切にかかわることができる子どもを育てる

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、素直である。 ・地域は、教育に熱心で協力的である。 ・職員は、共通理解したことを同じ歩調で確実に実行する。 	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・学力を支える生活習慣が弱い。
--	--

地域や保護者のニーズ

- ・メディアに振り回されずきまりを守って生活してほしい。
- ・ネットトラブルに巻き込まれない知識やモラルを身に付けてほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	メディアコントロールができる子どもを育てよう
内容	保護者・地域・中学校と連携し、メディアに振り回されず、自分でコントロールできる子どもを育てる。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価にメディアコントロールの項目を入れ、全職員で課題や方策を共有する。 ○PTAと連携し、実態調査等を行い、市P連で示された5つのルールを自校の実態に合わせたものにしていく。 ○佐渡テレビと連携し、保護者や児童にメディアとのかかわり方を学ぶ機会を提供したり、メディアコントロールについて学校だよりに載せ、啓発する。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ○実態を元に学級活動の計画にメディアコントロールについての学習を位置づける。 ○家庭学習カードにメディアコントロールについての自己評価を入れ、定期的に自分の生活を振り返る。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールを意識して生活できる子どもが増えてきた。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の開示により、実態を知ることができた。 ・子どもとメディアとの接触について意識を高めることができた。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ○e ネットキャラバンを請け負っている佐渡テレビと連携し、保護者向け講演会と児童を対象にした指導を実施する。 ○市P連で示された5つのルールを踏まえ、自校の実態に合ったルールを作る。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 金井小学校

氏名・年度 中村 哲裕 (平4)

1 教育課題（※通級指導でかかわる子どもに関するものとします。）

・自己表出することがあまり得意ではない。

2 地域教育プログラム創出に向けての地域の現状分析

強み 在籍校でそれぞれ地域独自の学習が進められている。

弱み 居住地域以外に学んだことを発表する機会が少ない。

地域や保護者のニーズ

- ・地域のことをもっと知ってほしい。良さを知り、ほこりをもってほしい。
- ・地域の一員として、成長して行ってほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	今日の学校のこと
内容	通級指導のときに最近の出来事について話す機会を設け、考えたことや感じたことを表出する機会とする。
自分の役割	○地域について知っている情報を引き出す。
持続可能性の保障	○通級指導に来ている限り、毎回の課題として取り上げることができる。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
○子どものメリット ・通級指導の際、地域に関することを紹介でき、それを褒められた。	地域や保護者のメリット ・地域について子どもが自慢することができた。
次年度に向けて 地域学習に関する情報等を担任から事前に得ておく。	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立新穂小学校
香遠 正浩 (60年度)

1 自校の教育課題

地域に貢献しようという意欲をもって活動できる子どもを育てる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- 保護者・地域は協力的であり、地域の教育力を生かした教育活動を行っている。
- 昨年度と今年度で校外学習用の自転車を1学年分確保した。
- △ これまでの佐渡学単元は「地域の課題」を把握した上で作られてないため、地域貢献型の総合学習になっていない。

地域や保護者のニーズ

- ・リピーターも含めて観光客が増え、佐渡が活性化することを願っている。
- ・地域貢献活動について、これまで以上のことを期待している人は少ない。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 「トキガイド」と「子ども鬼太鼓」

内容 主に島外から修学旅行で訪れる小学生にトキについて解説したり、鬼太鼓を披露したりして、佐渡の自然や文化の素晴らしさを伝える。

自分の役割

- ・佐渡学指導にTTで入り、年間指導計画の改善について指導・助言する。
- ・活動の内容だけでなく、活動のさせ方、意識のもたせ方について指導・助言する。
- ・交流する学校を選定し、その後は教頭を窓口とする。

持続可能性の保障

- ・教育課程に位置付けるとともに、実施マニュアルを作り、継続できるようにする。
- ・地域の声も参考にしながら、毎年指導計画の見直しをする。

4 成果と次年度に向けての取組

成果

○子どものメリット

伝えた相手から喜ばれ、達成感や満足感を味わっている。

○地域や保護者のメリット

トキの森公園、公民館、保護者から感謝されている。

次年度に向けて

今年度の実践の成果と課題を踏まえて、実施内容や方法を改善していく。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 新穂小学校
猪股 快門 (11年度)

1 自校の教育課題

地域貢献型の「佐渡学」へと改善し、主体的に佐渡に学び、佐渡を愛し、佐渡に貢献できる子どもを育成する。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none">・素晴らしい教材としての資源が地区内に存在している。・学校を支援してくれる人材に恵まれている。	弱み <ul style="list-style-type: none">・連携できる専門家や機関は、十分に活用できていない現状がある。・島外から来た担任もあり、「佐渡学」についての認識がまだ、不十分な状況。
地域や保護者のニーズ <ul style="list-style-type: none">・新穂の良さについて子どもたちにしっかり伝えて欲しい。・新穂小、行谷小が連携してトキや鬼太鼓の学習が進められるといい。	

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	外（ほか）から学べ！そして、佐渡を宝島に！
内容	6月に行われる修学旅行を「地域貢献型佐渡学」の一環として実施し、旅行を通して、ふるさと佐渡を愛する気持ちを育てる。
自分の役割	担任として、修学旅行の指導計画を管理職と連携して見直し、事前指導・引率・事後指導を行う。
持続可能性の保障	「佐渡学」指導計画に具体的に位置づけ特長化を図っていく。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果 他地域と佐渡を比べ、佐渡を見つめ直すことができた。	
○子どものメリット：旅行という活動は、子どもにとって取り組みやすい。	○地域や保護者のメリット：修学旅行がただの物見遊山に終わらない。
次年度に向けて：修学旅行の目的地が変わるが、佐渡と旅行先を比較するという大きな柱は変えず取り組むことで、子どもたち自身の目で佐渡を見つめ直させたい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 新穂小学校
若林 祐介 (平成20年度)

1 自校の教育課題

地域の教育力を生かし人とのかかわりを通して確かな学力を育成する心トキめく学校

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ○地域の教育力を活用した教育実践の土台がある。保護者・地域が協力的。	弱み △トキや鬼太鼓などの豊富な地域素材を子どもたち自身がよく知らない。
--	--

地域や保護者のニーズ ○地域のよさを知り、地域の方々と関わりを持ってほしい。将来後継者になってほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	チャリンコ探検隊～新穂の町探検～
内容	○ 地域の店に買い物に行く機会を用意し、生活との関わりを体感させる。 ○ 地区探検をして、地区内の様々な場所に行き、見学したり、体験学習をしたりする。
自分の役割	学級担任として、学級の子どもたちを対象に生活単元学習の授業を行う。
持続可能性の保障	○ 1学期・2学期の間に生活単元学習の単元として、地区探検を位置づける。

4 成果と次年度に向けての取組 (2月末に記入して提出)

成果	
○子どものメリット 地域のことに詳しくなり、自分で生活できるという自信がついた。	○地域や保護者のメリット 地域のことを知り、地域に愛着を持つことができた。
次年度に向けて さらに地域の探検を続け、地域に対して還元できることを考え、実践する。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 新穂小学校

川村 哲也 (H25年度)

1 自校の教育課題

地域貢献型の「佐渡学」へと改善し、主体的に佐渡に学び佐渡を愛し、佐渡に貢献できる子どもを育成する。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・素晴らしい教材としての資源が地区内に存在している。
- ・学校を支援してくれる人材に恵まれている。

弱み

- ・連携できる専門家や機関は、十分に活用できていない現状がある。
- ・島外から来た担任もあり、「佐渡学」についての認識がまだ、不十分な状況。

地域や保護者のニーズ

- ・新穂の良さについて子どもたちにしっかり伝えて欲しい。
- ・新穂小、行谷小が連携してトキや鬼太鼓の学習が進められるといい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	トキガイド
内容	佐渡に来る修学旅行生に対しトキの森公園にて「トキガイド」を実施する。 トキや佐渡の環境についての学習を通して、佐渡を愛する気持ちを育てる。
自分の役割	4年生担任として、総合的な学習の時間の指導計画を見直し、事前指導・引率・事後指導を行う。
持続可能性の保障	「佐渡学」指導計画に具体的に位置づけ特長化を図っていく。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果 佐渡には、土地のよさ・トキを守る気持ちがあることを知ることができた。

○子どものメリット

ガイドを通してよさを伝えることは、自身の佐渡愛を再確認することができる。

○地域や保護者のメリット

佐渡のよさや魅力を子どもたちと話し合う機会となる。

次年度に向けて トキの魅力だけでなく、佐渡のよさをより伝えられる場としたい。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立行谷小学校
 氏名・年度 後藤洋子 平成4年度

1 自校の教育課題

- ・自己有用感・規範意識を育て、伸ばしていく必要がある。
- ・地域のよさを学んでいるが、地域に貢献している実感や社会参加の意識が低い。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none"> ・地域に多彩な人材が多くいる。 ・地域が学校に協力的である。 	弱み <ul style="list-style-type: none"> ・環境について調べたことを発信・蓄積したりする取組が不十分である。
---	--

- 地域や保護者のニーズ
- ・少子高齢化が進んでいるので、地域の活性化を図りたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	行谷地区についてのまとめ発信やお年寄りとの交流活動
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年での生活科・総合的な学習への取り組みをまとめ、地区や関係各所にたよりを配布する。 ・総合的な学習・キャリア教育についての学習の取り組みを学習発表会で発信したり、紙面で紹介したりする。(3～6年) ・学習発表会の紹介や取組の様子を地域の方(お年寄り)に伝える。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科や総合的な学習のたよりを1, 2学期号で発行することを年度当初の会議で伝え了承を得る。 ・決定後、たよりのレイアウトを知らせ、期日までに作成することを伝える。(1, 2学期) ・社会福祉協議会に連絡・調整する。(地域のサロンの日程調整・内容についての打ち合わせ) ・低学年(生活科)で、文化祭の招待状の作成・配布をさせる。(お年寄りとの交流活動) ・総合的な学習・キャリア学習について学習発表会で発信する計画を起案する。 ・3年生以上の総合的な学習についてのまとめ(ワークシート等)の準備・声かけ等行う。
持続可能の保証	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭は、学校行事に位置付いており、学習発表会の内容を、総合的な学習やキャリア教育等と設定することで、トキ学習以外にも展開可能できる。 ○生活科や総合的な学習のたよりは、写真を中心としたたよりで作成負担感も少なく継続可能。そのたよりを関係者や各地域等にも配布することで、学校での取組の様子も把握できる。 ○生活科の取組として、お年寄りとの交流を行う。(低学年)

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や自然・お年寄りとの触れ合う活動が増え、郷土愛や自己肯定感を高められた。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの取り組みが視覚化され、地域のよさを知らせることができた。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校発信から地域にも窓口を少しずつ置き、学校と地域や「トキの森公園」とより密に連携していけるように、各学年の年間指導計画にも位置づけられるように見直す。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 松ヶ崎小学校

氏名・年度 山本 博文 16年度

1 自校の教育課題

・極小規模校のため、多様な人間関係の中で自分の意見を話す機会が少ない。したがって、大勢の前で自信をもって表現することが苦手な児童が多い。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・地域が学校に協力的である。 ・豊かな自然、歴史、伝統文化が根強く残っている。	自校の弱み ・小規模校の上他地域との距離が離れているため、外部の人と接する機会が少ない。
--	--

地域や保護者のニーズ

- ・ふるさとに誇りをもち、地域の活性化を担う若者に育ててほしい。
- ・進学等で現在と違った環境の中でもたくましく生きていける子に育ててほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	秋の全校体験活動 ～「世阿弥の道」コースの開発～
内容	校区に残る「世阿弥の道」を歩きながら学ぶことで、地域の価値を改めて感じる。
自分の役割	・秋の全校体験学習の立案、運営をする。 ・地域ボランティアの方との打合せをする。
持続可能性の保障	○ 「世阿弥の道」が整備され、踏破が可能な限り実施できる。 ○ 地域の歴史にくわしい方が複数いらっしゃるの、ボランティアの確保は比較的容易にできる。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット ・地域の価値の再発見につながる。 ・外部の人とかかわることで、人との接し方を学ぶことができる。	○地域や保護者のメリット ・児童とのかかわりをもつことで、今後様々な地域行事等に児童が参加できるきっかけ作りになる。
次年度に向けて	
・毎年同じコースではマンネリになってしまう。6コースほど開発し、在学中に1回はすべてのコースに参加できるような形をとっていきたい（現在は5コース開発済み）。また、できるだけ外部の方が参加できる形をとりたい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立真野小学校
氏名・年度 伊藤 泰孝 (H8)

1 自校の教育課題

- ・きまりごとがなかなか徹底されない。(廊下の歩行、靴の履き方、給食時の私語等)
- ・友だちと関わりながら仲良く活動できる反面、相手の気持ちを傷付ける言動によるトラブルも少なくない。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none">・地域保護者が学校に協力的である。・小中連携を密にしながら、児童、生徒の情報交換や指導に当たれる。	弱み <ul style="list-style-type: none">・地域に貢献する活動が少ない。・地域の人材を活用するための、人材把握が十分にできていない。
---	--

地域や保護者のニーズ <ul style="list-style-type: none">・挨拶がしっかりできる子どもたちに育てて欲しい。・地域の伝統芸能や行事等に関心をもち、大切に守り続けて欲しい。
--

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	秋の体験学習 (秋遠足)
内容	佐渡の自然や伝統・文化に触れる体験を通して、郷土を愛する心を養う。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">・各コース設定に関わる渉外関係 (体験活動の依頼、体験内容や体験料の交渉等)・各コースの魅力を伝える情報提供・ボランティアの依頼・各コースの人数調整
持続可能性の保証	<ul style="list-style-type: none">○体験施設や講師・保護者ボランティアの方へ、次年度も継続して協力してもらえよう、丁寧な対応を心掛ける。○コース下見報告書や児童用のしおり、実施後の反省等、次年度の資料となり得るものを確実に保存し、引き継いでいく。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none">・佐渡の自然や伝統・文化に触れる体験を通して、佐渡のよさを知ることができる。・異学年との関わりを通して、互いの理解を深めることができる。	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none">・真野小の子どもたちの体験する様子をおして、子どもたちの実態を知っていただく。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none">・子どもたちにとってより有意義な体験となるように仕組んでいく。・遠距離コースではなく、地域のよさ (場所・人材等) をもっと活かせるようなコース設定を考えていく。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立真野小学校
氏名・年度 北川 禎 (H13)

1 自校の教育課題

- ・総合的な学習の時間などの学習に意欲的に取り組む反面、地域の伝統芸能を受け継いでいこうという意識は低い。
- ・地域の行事への参加率も高くはない。
- ・学習発表会などで上手に表現できる児童もいるが、表現力の向上に課題がある。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none">・地域が学校に協力的である。・地域に伝統芸能を教えてくれる方々がいる。	弱み <ul style="list-style-type: none">・地域に貢献する活動が少ない。・地域の人材を活用するための、人材把握が十分にできていない。
---	--

地域や保護者のニーズ

- ・地域の伝統芸能や行事等に関心をもち、大切に守り続けて欲しい。
- ・地域の伝統芸能の保存と後継者の維持を図りたい。
- ・学んだことをしっかり表現できる子どもになってほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	踊り継ごう 歌い継ごう 豊田音頭
内容	豊田音頭や佐渡の民謡について学習することを通して、地域の伝統芸能に関心を持ち、郷土を愛する心を養う。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">・指導計画の立案・活動に関わる渉外（児童への指導の依頼等）・日程の調整・学習発表会、芸能発表会に向けた子どもたちへの指導
持続可能性の保証	<ul style="list-style-type: none">○次年度も継続して協力してもらえるよう、豊田音頭保存会の方々との連携を密にしていく。○豊田音頭保存会が今年解散したため、今後どのように活動を継続していくのかを検討していく必要がある。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none">・豊田音頭等の民謡を学習することを通して、地域の伝統芸能のよさを知ることができた。・調べたことを分かりやすく発表することができた。	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none">・豊田音頭を地域の方々に知っていただく一助となった。・発表会を通して、子どもたちが学んだことを知ることができた。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none">・豊田音頭保存会が解散してしまったため、今後の活動をどのように継続していくかが課題である。・子どもたちにとってより有意義な学習となるように仕組んでいく。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立真野小学校
氏名・年度 川上 大雅 (H20)

1 自校の教育課題

- ・きまりごとがなかなか徹底されない。
(廊下の歩行, 靴の履き方, 給食時の私語等)
- ・学習習慣が定着しない。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none">・地域保護者が学校に協力的である。・小中連携を密にしながら, 児童, 生徒の情報交換や指導に当たれる。	弱み <ul style="list-style-type: none">・地域に貢献する活動が少ない。・地域の人材を活用するための, 人材把握が十分にできていない。
---	---

地域や保護者のニーズ

- ・挨拶がしっかりできる子どもたちに育てて欲しい。
- ・地域の伝統芸能や行事等に関心をもち, 大切に守り続けて欲しい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	佐渡金山の世界遺産登録に向けて (総合的な学習の時間)
内容	佐渡の伝統・文化を学び、郷土を愛する心を養う。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">・見学等についての交渉・金山の魅力を伝える情報提供・地域の知識人への講師依頼・社会科の授業内で、積極的に情報発信をする。
持続可能性の保証	<ul style="list-style-type: none">○体験施設や講師・保護者ボランティアの方へ、次年度も継続して協力してもらえよう、丁寧な対応を心掛ける。○実施後の反省等、次年度の資料となり得るものを確実に保存し、引き継いでいく。

4 成果と次年度に向けての取組 (2月末に記入して提出)

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none">・佐渡の伝統・文化の学びを通して佐渡のよさを知ることができた。・佐渡市の活動に興味をもつようになった。・社会科の学力が向上した。	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none">・真野小の子どもたちの学習する様子をおして, 子どもたちの実態を知っていただいた。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none">・子どもたちにとって有意義な学習となるようにカリキュラム上に仕組んでいく。・佐渡市や新潟県が発信する情報をタイムリーに収集していく。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立小木小学校
 氏名・年度 三浦一寛・59年度

1 自校の教育課題

- ・地域のヒト・モノ・コトに直接触れる学びを追究すること
- ・コミュニケーション能力（自己を主張する力）を鍛えること

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・地域が学校に協力的である。 ・地域には「技」をもった多彩な人材がいる。	弱み ・地域のよさが「当たり前」になっている。 ・地域に対して貢献する活動が少ない。
---	---

地域や保護者のニーズ

- ・地域の活性化のために、地域の素材を活用した教育活動を展開してほしい。
- ・自分の考えをもち、しっかりと表現できる人間になってほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	小木(佐渡)のよさを発信する交流学习
内容	総合的な学習の時間に、小木地区のヒト・モノ・コトに関わる追究活動を行う。追究過程においては、小木地区の活性化に思いを馳せながら学習に取り組む。学習の成果は、交流学习の機会を通して佐渡以外の人に発信する。
自分の役割	単元の構成や子どもの追究活動の展開は、学級担任及び総合主任とが連携し、実践を進めていく。私は、学習の成果発表の場である交流学习に関わって、相手校とのコーディネートを含めた渉外担当を務める。
持続可能性の保障	○交流学习の機会は、こちらが出掛けていく形もあれば、修学旅行等で来島した学校との交流会としても実施可能である。今年度も予め予定していた学校に加え、修学旅行で来島する機会にという依頼があり、複数校との交流学习を実施した。

4 成果と次年度に向けての取組（記入して1月末に提出）

成果	
○子どものメリット 小木地区の「ヒト・モノ・コト」との関わりを意図的に仕組んだことは、子どもが「当たり前」と受け止めていた事象を新鮮な目でとらえ、地域の活性化に向けた追究へのモチベーションを高めるきっかけとなった。	○地域や保護者のメリット 子どもが小木地区の「ヒト・モノ・コト」に直接関わって、活動したり発信したりする姿は、地域を活気付かせたり、保護者にも子どもの発表力の向上など具体的な成果を示したりする機会となった。
次年度に向けて 子どもの力だけで、活動のフィールドを広げていくことは難しい。大人が子どもの主体性、創造性を損なうことなく、コーディネートしていく必要がある。この担い手を地域からも広く募っていくことで、地域貢献に向けた意識と意欲も高まっていく。	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立小木小学校
渡部 聖子 59年度

1 自校の教育課題

自分から他に働きかける積極性・社会生が不足している。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・地域が学校に協力的である。
- ・地域の方を指導者にした教育活動を展開している。

弱み

- ・児童数や地域の実情等が変化している中で、同じ取組内容を継続している。

地域や保護者のニーズ

- ・児童数の減少や若者の流出、高齢化の中にあって地域行事や伝統文化を守り継承していきたい。

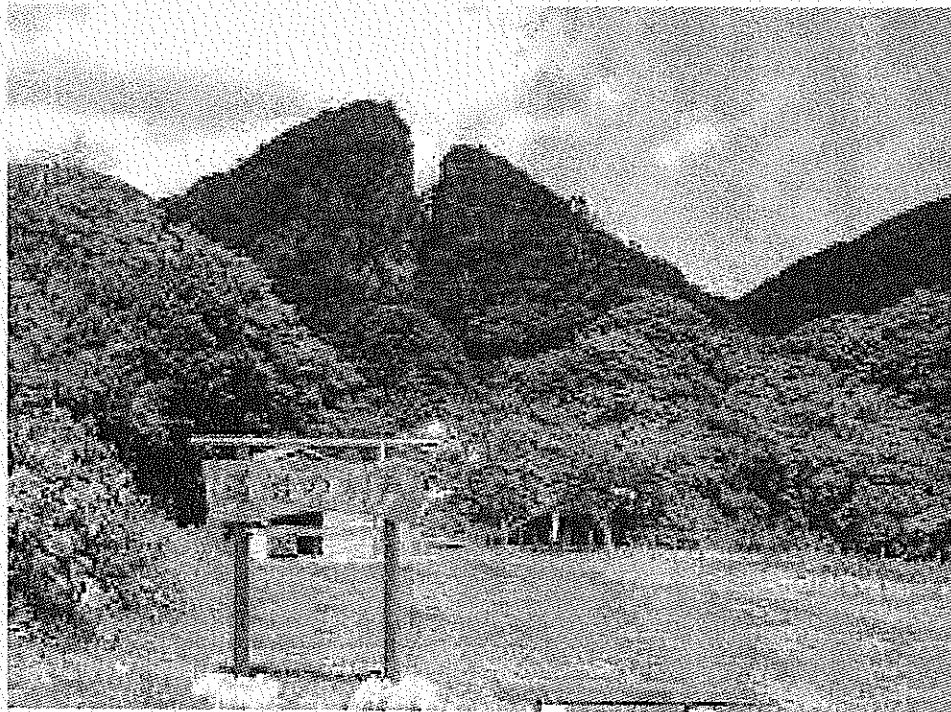
3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	小木港祭りでの「組みおけさ」「マーチングバンド」
内容	地域を盛り上げるために、祭りに全校児童が参加し、地域の要所で「組みおけさ」や「マーチング演奏」を披露する。
自分の役割	地域の推進組織との打合せや練習日程の調整、指導者への依頼、演奏場所やコースの検討、職員会議での提案と合意形成、祭り当日の先頭
持続可能性の保障	○「組みおけさ」は、幼稚園の年長から小学2年生まで3年間継続し、合同で練習する。当日の衣装の着付けは、毎年保護者をお願いしている。 ○「マーチングバンド」は、祭りや地区運動会等での発表を目指し、毎年1～2月に6年生や上学年から教えてもらい、演奏を引き継ぐ。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット ・自分たちの姿が、地域の人を喜ばせていることに気付くことができた。たくさんの人に賞讃され達成感を得られた。	○地域や保護者のメリット ・目の前での児童の活動を見ることが出来る。地域に賑わいが出る。 ・我が子の姿を、大勢の方に見てもらえる。
次年度に向けて	・児童数が減少しても、地域の方に喜んでもらえるよう、演奏場所や内容を検討する。

中学校 地域教育プログラム



地域教育プログラム 実践シート

学 校 名 両津中学校

氏名・年度 雑賀 裕(63)

1 自校の教育課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己有用感が低い ・ 言動が粗暴であり、社会性が身に付いていない生徒が多い
--

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・ 部活動に対する思いを強くもっている生徒が多い	弱み ・ 学区が広く、5つの小学校から生徒が集まってくる。人間関係づくりで悩む生徒への指導が毎年の課題である
地域や保護者のニーズ ・ 地域の伝統や文化を継承し、活性化の一翼を担って欲しい	

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	地域と共に取り組む地域づくり
内容	・ 地域の祭りや、福祉施設及び商工会等地域に存在する施設やイベント(ボランティア)に、中学生が主体性をもって参画し、地域の活性化を図る
自分の役割	・ 地域を探る…関係機関や運営母体を訪問し、中学生の参画の可能性を探る ・ 地域と学校をつなぐ…祭りへの参加や事業所訪問など連携を具体化する
持続可能性の保証	・ 地域と学校の両輪で運営する「地域創りサークル(仮称)」を組織する ・ 学校の文化祭や地域芸能祭等で発表の機会を位置づけることで、継続性を保証する

4 成果と次年度に向けての取組(1学末に記入して提出)

成果	
○子どものメリット ・ ボランティア精神を養える ・ 異年齢とのふれあい体験	○地域や保護者のメリット 若い世代がかかわることで活性化の一助となる
次年度に向けて ・ 地域との連携母体の拡充を図る。「地域創りサークル(仮称)」の実現を目指し、PTA、地域の民生委員等との連携を強化する。	

地域教育プログラム 実践シート

学 校 名 佐渡市立両津中学校

氏名・年度 安藤 博通(元年度)

1 自校の教育課題

- ・自己有用感が低く、問題行動を繰り返す生徒が目立つ。
- ・基礎的な学力がきちんと定着していない生徒が多く見られる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・両津中学校を親身になって支えてくれる保護者が多い。
- ・地域ごとに温度差があり、生徒・保護者との一体感に乏しい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	両津湾と加茂湖の恵みと課題を学ぶ
内容	・地域のみなさんと歩く「加茂湖一周健康ウォーキング」の実施。 (両津中の生徒は全員参加)
自分の役割	・関係機関と自校の組織のパイプ役として活動する。 ・生徒会の協力をお願いする。 ・市教育委員会(社会教育事業)との共催に持ち込む。
持続可能性の保証	・少しずつ準備し、学校側の準備ができてから市教委との交渉にもっていく。 ・総合の時間等を使い、両津史を社会科以外の時間でも学ぶ。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット	○地域や保護者のメリット
・両津の歴史を再確認できる。 ・地域の方々との交流	・自然とふれあう機会ができる。 ・生徒との交流
次年度に向けて	
周りの職員の理解を得られるよう少しずつ準備を進めていきたい。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 両津中学校

氏名・年度 霍間 厚浩(H2)

1 自校の教育課題

- ・自己有用感が低い
- ・言動が粗暴であり、社会性が身に付いていない生徒が多い

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み ・部活動に対する思いを強くもっている生徒が多い	弱み ・学区が広く、5つの小学校から生徒が集まってくる。人間関係づくりで悩む生徒への指導が毎年の課題である
地域や保護者のニーズ ・地域の伝統や文化を継承し、活性化の一翼を担って欲しい	

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	地域と共に取り組む地域づくり
内容	・地域の祭りや、福祉施設及び商工会等地域に存在する施設やイベント（ボランティア）に、中学生が主体性をもって参画し、地域の活性化を図る
自分の役割	・地域を探る…関係機関や運営母体を訪問し、中学生の参画の可能性を探る ・地域と学校をつなぐ…祭りへの参加や事業所訪問など連携を具体化する
持続可能性の保証	・地域と学校の両輪で運営する「地域創りサークル（仮称）」を組織する ・学校の文化祭や地域芸能祭等で発表の機会を位置づけることで、継続性を保証する

4 成果と次年度に向けての取組（1学末に記入して提出）

成果 地域の祭やボランティア行事への参加	
○子どものメリット 様々な人と繋がることにより自己有用感を高めた。	○地域や保護者のメリット 中学生との協働により、地域行事活性化へ繋がる手立てとした。
次年度に向けて	
・地域と学校の両輪で運営する「地域創りサークル（仮称）」を組織する。	

地域教育プログラム 実践シート

内海府中学校

宇治正明（58年度）

1 自校の教育課題

- ・所属感、自信、自己有用感をもった児童生徒の育成
- ・自ら考え、判断し、行動する力を身に付けた児童生徒の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・子どもの仲がよく、仲間のフォローができる。
- ・きめ細かな指導ができる。
- ・自然豊か。
- ・保護者、地域が学校に協力的。

自校の弱み

- ・固定された人間関係でハングリー精神が乏しい。
- ・過疎化により、少子高齢化が進んでいる。
- ・校区が広く、道路状況がよくない。

地域や保護者のニーズ

- ・地域とかかわる祭りや行事が多く、学校の積極的な参加が期待されている。
- ・地域のよさを子どもが感じてくれることを期待している。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 カンゾウ祭りや寒ブリ大漁祭りへの学校参加

内容 地域の2大行事に参加し、太鼓演奏、環境保護募金、ガイドボランティアを通して、地域の活性化に貢献するとともに、地域のよさを子どもに感じ取らせる。

自分の役割

- ・地域活性化のために学校としてできることを職員・児童生徒に意識づけていく。
- ・キャリア教育の視点から、基礎的・汎用的能力の育成を意図した取組にしていく。

持続可能性の保障

- ・祭りの実行委員会にも学校として参加し、地域とともに活動する体制となっている。
- ・外部講師との指導を受け、練習や活動準備を進めることができるような体制をとっている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

- ・地域のよさをアピールすることで、地域への愛着が深まった。
- ・コミュニケーション能力をはじめ人間関係形成能力をはぐくむ機会となった。

○地域や保護者のメリット

- ・地域行事に生徒が参加することで、行事が盛り上がった。
- ・地域と生徒が関わることで、地域の輪が広がることが期待される。

次年度に向けて

- ・これまでの活動に改善を加えながら継続していく。課題として、生徒・職員数の減少に伴う工夫が不可欠である。

地域教育プログラム 実践シート

内海府中学校
風間広樹 (61年度)

1 自校の教育課題

- ・所属感、自信、自己有用感をもった児童生徒の育成
- ・自ら考え、判断し、行動する力を身に付けた児童生徒の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

<p>自校の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの仲がよく、仲間のフォローができる。 ・きめ細かな指導ができる。 ・自然豊か。 ・保護者、地域が学校に協力的。 	<p>自校の弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定された人間関係でハングリー精神が乏しい。 ・過疎化により、少子高齢化が進んでいる。 ・校区が広く、道路状況がよくない。
--	--

地域や保護者のニーズ

- ・地域とかかわる祭りや行事が多く、学校の積極的な参加が期待されている。
- ・地域のよさを子どもが感じてくれることを期待している。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	カンゾウ祭りや寒ブリ大漁祭りへの学校参加
内容	地域の2大行事に参加し、太鼓演奏、環境保護募金、ガイドボランティアを通して、地域の活性化に貢献するとともに、地域のよさを子どもに感じ取らせる。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事の企画運営への積極的参画。 ・各行事の運営団体と学校との連絡調整。 ・保護者、地域への情報発信。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りの実行委員会にも学校として参加し、地域とともに活動する体制となっている。 ・外部講師との指導を受け、練習や活動準備を進めることができるような体制をとっている。

4 成果と次年度に向けての取組 (2月末に記入して提出)

成果	
<p>○子どものメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを感じ取り、地域に貢献することができた。 ・芸能の技を身につけたり、コミュニケーション能力を伸ばしたりすることができた。 	<p>○地域や保護者のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生が地域の行事に参加することにより、地域の活性化に資することができた。 ・地域のよさを中学生に教えることができた。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも8名と少人数だが、来年度は4名が卒業し、新入生は入らず、全校生徒4名となる。10年先を見ても増える見込みはない。今まででできたことができなくなる可能性も高い。生徒会組織や行事の精選など、抜本的な改革が必要である。職員、生徒ともに現在検討を重ねている。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立前浜中学校

氏名・年度 岩崎浩史・63年度

1 自校の教育課題

- ・主体的、協働的な学び方を身に付けた生徒の育成
- ・分かりやすく伝える力の育成
- ・共感的な人間関係と高め合う集団を構築する能力の育成

2 教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が協力的 ・小学校との連携校 ・豊かな自然や歴史・伝統文化がある。 	自校の弱み <ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献する活動が少ない。 ・地域コーディネーターがいない。
地域や保護者のニーズ <ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを知り、地域の産業、伝統芸能を引き継ぐ後継者の育成 	

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	トライアスロン大会ボランティア活動
内容	佐渡トライアスロン大会で学区に設置されるエードステーションで、大会参加選手への飲み物、食べ物の提供、及び自校のお囃子で選手の応援や激励を行う。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・大会主催者へのボランティア活動参加の申込と参加計画を作成する。 ・ボランティア活動の班を編成する。 ・生徒の役割や内容をエードステーションの主任と協議し決定する。
持続可能な保障	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がエードステーションの活動を支え、その役割を十分に果たしている。 ・帽子、服装、昼食などは大会主催者が準備してくれる。 ・篠笛の練習も講師を招聘し、5月から定期的に取り組んでいる。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・大会、地域に貢献しているという自己有用感が得られた。 ・地域の多様な人々と選手と交流ができる。 ・選手の姿から向上心や感動を得られる。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を支える貴重な人材となっている。 ・篠笛演奏を観る機会となっている。 ・生徒とふれ合える場となっている。
次年度に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献、地域の人や選手と直接交流できる活動として有意義な活動であると考えてるので、小学校との連携活動として実施していきたい。 	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立相川中学校
小沼泰高・60年度

1 自校の教育課題

<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識、人権意識を高める。 ・我慢強さ、粘り強さを身に付けさせる。
--

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

<p>自校の強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録を目指した団体・組織からの協力依頼や取材依頼がある。 ・観光資源に恵まれている。 	<p>弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体、組織の事業が多重化している。 ・経済面や教育に課題を抱えた家庭が増加してきた。
---	--

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	鉾山祭りにおける「おけさ流しパレード」と「京町通のガイドボランティア」
内容	中学生の参加による鉾山祭りの活性化と観光客への観光PR
自分の役割	マスコミ等への情宣活動、支援の輪の拡大、資金の確保
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援地域本部を立ち上げ、取組が途絶えないようにする。 ○ 学校支援事業、学校支援地域本部等を活用し、資金の確保を図っている。

4 成果と次年度に向けての取り組み(2月末に記入して提出)

成果	
<p>○子どものメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献していると回答する生徒が増えた。 ・地域への愛着が高まったと回答する生徒が増えた。 ・地域の人々との交流は大切だと回答する生徒が増えた。 	<p>○地域や保護者のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動に対する肯定的な評価が高まった。 ・マスコミに紹介されることで、学校への好感度が高まった。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でも類似の取組を行っているため、小学校の焼き直しのような印象をもたれないようにする。 ・地域の参加者を増やす。 ・道具の充足のための資金確保 	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立相川中学校
神蔵 実(平成元)

1 自校の教育課題

- ・ 物事に対して自ら判断し、積極的に取り組もうとする姿勢が弱い。
- ・ 自己肯定感や有用感に弱さが見られ、他者との関わりの中で「認められる、感謝される」という経験を積ませることが必要である。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	・ 小学校から継続しての佐渡学実施による地域学習の積み重ね ・ 統合以来続く「総合的な学習の時間」での地域貢献活動の積み重ね
自校の弱み	・ 地域貢献活動の割り当て時間の減少 ・ 地域の魅力についてのPR手段の少なさ

地域や保護者のニーズ	・ 佐渡観光の活性化に向け、市民全体で取り組んでいきたい。 ・ 地域の文化財の価値を知り、郷土に誇りをもってもらいたい。
------------	---

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	佐渡の世界遺産登録に向けた広報活動の展開
内容	金銀山に関連した史跡・施設を中心とする佐渡の世界遺産登録の広報活動を、修学旅行時に生徒が行い、新潟県及び佐渡市の推進活動に寄与する。併せて、郷土に関する知識を広げるとともに、他者と関わる力を育成する。
自分の役割	・ 修学旅行全体の総括、渉外等 ・ 訪問受け入れ先の選定と交渉 ・ 資料(スライドや原稿など)の選定、作成と、生徒の指導。 ・ 原稿の手直し、練習計画の作成、練習指導。 ・ 当日の準備・受付、生徒の引率。
持続可能性の保証	・ 佐渡市が引き続き「金銀山の関連遺産」の世界遺産への登録を目指すことを表明し、市民の協力を求めている。

4 成果と次年度に向けての取組(2月末に記入して提出)

成果	○子どものメリット ・ 準備から当日の実践まで、自分たちの手で成し遂げたという達成感と地域に貢献したという自己有用感をもつことができた。 ・ 見知らぬ人たちとコミュニケーションに積極的に取ることにより、他者と関わる力がついた。
	○地域や保護者のメリット ・ 新聞、テレビ等にも取り上げられ、世界遺産登録への機運を盛り上げた。 ・ メディアや学校での発表会等を通じて、子どもたちの取り組みと新たな一面を知ることができた。
次年度に向けて	今年度初めての取組であり、次年度向けに計画や推進方法などをマニュアルとしてしっかりと残し、今後の活動につなげていきたい。

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立相川中学校
樋口 剛 (平成元)

1 自校の教育課題

- ・ 自主性や積極性に欠ける面が見られるが、協働により様々な課題に取り組むことができる。
- ・ 自己肯定感や有用感に弱さが見られ、他者との関わりの中で「認められる、感謝される」という経験を積ませることが必要である。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	・ 小学校から継続しての佐渡学実施による地域学習の積み重ね ・ 統合以来続く「総合的な学習の時間」での地域貢献活動の積み重ね
自校の弱み	・ 地域貢献活動の割り当て時間の減少。 ・ 利用客確保のためのPR手段の少なさ (他機関との連携不足)

地域や保護者のニーズ

- ・ 佐渡市観光の活性化に向け、市民全体で取り組んでいきたい。
- ・ 市の文化財の価値を知り、郷土に誇りを持ってもらいたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	相川観光ボランティアガイド(全校総合)
内容	相川金銀山に関連した史跡・施設の紹介を行い、見落としがちなスポットを観光客に紹介することで、相川観光の活性化に寄与する。併せて、生徒の郷土に関する知識を広げるとともに、他者と関わる力を育成する。
自分の役割	・ 活動紹介資料(スライド+原稿)の作成と、プレゼン代表生徒指導。 ・ ガイド原稿の見直し・印刷と、練習計画の作成、練習指導。 ・ 現地練習用のバス手配や関係機関との連絡・調整。 ・ 当日の準備・受付、生徒の配置等の管理。
持続可能性の保証	・ 地域学習の一つとして知名度もあり、佐渡学の発表会や「棚田サミット」等、イベントへの参加要請もある。 ・ 「佐渡おけさ」の演奏や踊りなど、他の活動も鉾山祭参加や福祉施設訪問等で地域貢献を継続している。 ・ 佐渡市が引き続き「金銀山の関連遺産」の世界遺産への登録を目指すことを表明し、市民の協力を求めている。

4 成果と次年度に向けての取組 (2月末に記入して提出)

成果	<p>○子どものメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関する知識を得るとともに、地域に貢献しているという自己有用感をもつことができた。 ・ 利用の呼びかけなどを通して、他者とのコミュニケーションに積極的に取り組めるようになった。 <p>○地域や保護者のメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞、テレビ等にも取り上げられ、佐渡の魅力発信に寄与した。 ・ 送迎の保護者等にも案内させていただき、普段気づかない地域の魅力について知っていただくことができた。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となるマニュアルの内容にプラスαでお話できるような知識を持たせるための、資料整備と学習時間作りを計画する。

地域教育プログラム 実践シート

相川中学校
中澤健太 11年度

1 自校の教育課題

人間関係作りが苦手な生徒が多い

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

○強み…金山、尖閣湾など、地学的財産に恵まれ、観光客も多い。鉾山祭など、伝統的行事があること。

○弱み…子どもの数が年々少なくなり、少子高齢化が進んでいること。

地域や保護者のニーズ

○地域と学校と保護者と連携し、子ども達を成長させたいと願っている。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	レンジャー活動
内容	総合学習を全校体制で行い、アートレンジャー、ミュージックレンジャー、ガイドレンジャー、ダンシングレンジャーに分かれ、相川地区の様々な活動に参加し、盛り上げたり、手伝ったりする。
自分の役割	ミュージックレンジャーに所属し、鉾山祭りに向け、太鼓、笛等の練習をしやすい環境を作る。また、鉾山祭り当日、生徒が地域のために役に立ったと思えるような指導を工夫する。
持続可能性の保障	地域の介護福祉施設に慰問し、発表を行っているため、今後も発展、継続が可能である。 地域のお祭りである鉾山祭りと関連付けて行っているため、今後も発展、継続が可能である。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット 介護施設では、発表会后、生徒とお年寄りが握手することで、感謝の気持ちを実感している。 鉾山祭では、大勢の地域の方に見てもらうことで、充実感を得ている。	○地域や保護者のメリット 介護施設では、お年寄りに笑顔が溢れ、元気になっている様子が感じられる。 鉾山祭では、多くの中学生が参加することで、お祭りや地域が活性化されていると感じられる。
次年度に向けて	今年度の活動を継続すると共に、より広報活動を行うことを通して、地域の人以外の人にも見てもらえるようにする。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 高千中学校
氏名・年度 渡邊 俊行・59年度

1 自校の教育課題

- ・小規模校のため、人間関係が固定化されていて、人間関係構築に弱さが見られる。コミュニケーション能力が十分に育っていない。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・地域が学校に協力的である。
- ・地域に多彩な人材がいる。

弱み

- ・文弥人形の指導者が少ない。保護者でやっている人がいない。

地域や保護者のニーズ

- ・少子高齢化が進んでいる。外で遊ぶ子どもが少ない。地域の活性化と、地域の伝統芸能の保存と後継者の維持を図りたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 文弥人形、情宣活動

内容 文弥人形クラブが創設されて51年目になる。平成18年から全校で数年前から人形操作に加え、三味線と語りも取り入れている。たかち芸能祭と文化祭で発表している。しかし、地域以外にあまり認知されていない。保護者・地域の方の想いを確認しながら、文弥人形を広めていきたい。そして、そのことで、子どもたちの能力を育成する。

自分の役割

- 管理職として文弥人形の活動への指導・支援と会計（補助金申請等）
- 保護者・地域の方の想いの把握と、情宣活動

持続可能性の保障

- 教育活動に位置付けている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

- ・発表毎に自分たちの取組を評価されることで、自信と課題をもち、次につなげることができた。
- ・各グループ毎の練習を通して、普段の人間関係以外での教え合うなどの関わりが見られた。

○地域や保護者のメリット

- ・発表する場が増えたため、地域や保護者、地域以外の人に見てもらえる機会が増えた。伝統芸能の保存と地域の活性化への貢献があった。
- ・練習や発表をとおして、関わる力や人前で発表する力などの子どもの成長を、保護者は感じることができた。

次年度に向けて

- ・平成28年度は、4回の発表の機会があった。例年は、2回である。平成29年度、今年度と同じような発表機会がないので、別の方法で、発表の場を用意したり、コミュニケーション能力等の育成を図る工夫をしたりしていく。また、校内で連携し、ホームページ等を活用して、文弥人形の情宣の充実を図っていく。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 高千中学校
氏名・年度 引野 太 H8年度

1 自校の教育課題

- ・小規模校のため、人間関係が固定化される傾向にあり、コミュニケーション能力が育っていない。また、大勢の中で活動したり発表したりする経験が少なく、そういう場面では消極的になりがちで、自信をもって活動できない。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・地域・保護者は、学校に協力的である。
- ・誇れる伝統文化があり、多彩な人材がいる。

弱み

- ・過疎化・高齢化が進んでおり、若者の姿が見えない。
- ・市街地への移動に時間がかかる。

地域や保護者のニーズ

- ・自校・地域の課題・現状より、学校での活動で様々な経験を積んでほしいと考えている。
- ・地域の伝統文化の保存・継承を望んでいる。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 | 文弥人形活動

内容

国の重要無形民俗文化財である文弥人形を総合的な学習の時間で取り組んでいる。当校では51年目を迎える伝統ある活動でもあり、地域指導者に、人形操作、三味線演奏に分かれて指導を受け、文化祭などで発表している。
活動を通して、郷土を愛し、誇りに思う心を育てるとともに、発表の機会を通して、達成感、成就感を味い、自信をもって取り組む態度を育てたい。

自分の役割

- ・地域指導者と生徒をつなぐパイプ役
- ・目標設定・振り返りの時間の確保
- ・発表場面の設定

持続可能性の保障

- ・教育活動に位置づけている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

- ・毎時間、目標設定と振り返りの時間を確保したこと、また、発表の機会が増えたことにより、意欲的に練習に励み、また、本番で堂々と自信をもって発表する生徒が増えた。

○地域や保護者のメリット

- ・外部の人たちに発表する場が増えたことにより、地域や保護者の方が直接観ることができる機会が増えた。

次年度に向けて

- ・発表の機会をどう確保していくかが課題である。

地域教育プログラム実践シート

学校名 佐渡市立佐和田中学校

氏名・年度 杉澤 亮 ・ 平成14年度

1 自校の教育課題

- ・自主的、自治的に取り組もうとする姿勢が不足している。
→ 共に高め合い、向上しようとする気持ちが望まれる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡のほぼ中央に位置し、商業、交通の中心地 ・トライアスロン大会や伝統工芸、芸能、新旧の文化が根付いた地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・アパートや大型店の進出が激しく人の交流が多い地域 ・地域の人材活用 ・開かれた学校の在り方

地域や保護者のニーズ

- ・認め合い、支え合う人間関係（の確立）→ 自主性や責任感の育成
- ・基本的な生活習慣の定着と道徳性の向上+学力の向上

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	ボランティア活動による地域教育活性化
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催されるボランティア行事の案内、募集、そして積極的な参加。 → ロングライド、トライアスロンのボランティア参加、地域・校内の企画など。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア教育担当として、計画的にボランティア企画を実践していく。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ○さわたボランティアネットワークとの長年にわたる連携。 ○学校の行事、委員会活動と融合している部分での強みがあること。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果：平成28年9月14日現在	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献への実感と自信獲得。 ・心身・奉仕の精神の成長。 ・自他を考慮した自発的な活動の増加に加え、個々の積極性の伸長。 	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのつながりを確実に得る。 → 顔が分かる、子どもを通して佐和田中学校の様子や状況を窺い知ることができる。
次年度に向けて → ※ 現時点での報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への積極的な参加。今年度、5月14日ロングライドボランティア・18名参加、9月4日トライアスロンボランティア・73名参加。 ☆ 大会の直前ややや体育祭の直後にも関わらず、多数参加。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立金井中学校

氏名・年度 後藤修治 (平4)

1 自校の教育課題

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・ 確かな学力の定着 | ・ 不登校、不適応の防止 |
| ・ 郷土を愛し社会に役立つ人間の育成 | |

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・ 地域コーディネーターが配置されており、地域の団体、人材とのパイプ役となっている。・ 素直で地域の人と気持ちよくかかわれる生徒が多い。	<ul style="list-style-type: none">・ 地域に出かけ、地域の方と協働で活動する機会が少ない。・ 地域学習の内容・方法が固定化されており、生徒の主体性を育てる手立てが不足している。

地域や保護者のニーズ

- ・ 金井地区は他地区、島外からの転入も多く、考え方やニーズも様々であるが、子どものため学校のためという意識は強い。
- ・ 佐渡市は人口減少、高齢化が進んでいる。佐渡の未来を担う人材の育成が求められる。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	地域貢献活動
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 金井フラワーロード植栽 (ボランティア委員)・ 公共施設、公共の場クリーン活動 (部活動単位)・ 地域文化体験活動 (1学年)
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">○ 貢献対象となる地域の人々のニーズを活動に反映させる。<ul style="list-style-type: none">・ 地域の人々のニーズを聞く場を作る。・ 地域の人々のニーズを活動に生かすという視点で実施計画段階で助言する。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none">・ 地域コーディネーターと連携した活動である。・ 学校教育支援事業、学校・家庭・地域連携推進事業の活用する。・ 教育課程に位置付け生徒の主体性を高める。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット ・ 地域の方から賞賛やお礼の言葉を聞くことで、自己肯定感を高めることができた。	○地域や保護者のメリット ・ 生徒と共に活動できる喜びを感じることができた。
次年度に向けて ・ 地域文化体験では、成果発表の場を地域の要望に応じて学校外でも設定できるようにしていく。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立金井中学校
氏名・年度 岩見 剛 (59年度)

1 自校の教育課題

- ・ 自主自立の精神を活動を通して培う。
- ・ 優しさと温かさがあり、互いに貢献できる生徒を育てる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- ・ 地域コーディネーターが協力的で、地域の方とのパイプ役になってくれている。
- ・ 小中連携で取り組む活動が伝統的に行われてきている。
- ・ 地域の清掃活動等への参加者が少ない。

地域や保護者のニーズ

- ・ 学習にきちんと取り組み、確かな学力を身に付けることを期待している。
- ・ 部活動や行事等、充実した学校生活を送ってほしいと願っている。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	フラワーロード植栽活動
内容	・ 小学校、地域のボランティアと協力し、金井中学校前の花時計～商店街の歩道、金井小学校花壇に年2回（6月、11月）花を植えている。
自分の役割	・ 地域コーディネーター、小学校との連絡調整に務め、校内の役割分担等を行う。
持続可能性の保障	・ 6月は市内球技大会で学校に残る文化部員、11月はボランティア委員会が小学校と時間をずらして行うなど、無理のない形で長年継続している。

4 成果と次年度に向けての取組（2学期末に記入して提出）

成果 長年の伝統として定着してきているとともに、中学生と小学生の交流の場となっている。	
○子どものメリット	○地域や保護者のメリット
<ul style="list-style-type: none">・ 6月は小学生と交流をもてる。・ 地域に貢献する実感を得られる。	<ul style="list-style-type: none">・ 金井地区の景観を美しくする。・ 地域の方々と交流の機会が得られる。
次年度に向けて	
<ul style="list-style-type: none">・ 例年、小学校に計画等を任せっきりのため、中学校側も企画・運営にかかわっていく。また、2回目も小中合同で実施できるよう、年度当初に日程検討する。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立金井中学校

氏名・年度 左京淳一・63年度

1 自校の教育課題

地域とともに歩む、学ぶ喜びあふれる学校

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- 総合的な学習の時間において地域の伝統芸能を地域の方から習っている
- 学校行事において保護者や地域のボランティアを募り、準備や運営をしている
- 中学生になると地域行事への参加が激減する

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	能体験教室
内容	3年生を対象に「佐渡の能を識る会」の皆様と協力のもと、能にふれる機会を設定する。6グループに分かれて大鼓、小鼓、能管、太鼓、謡い、仕舞を順番に体験することで、能を保存・発展させようとする地域の人々の思いを知り、佐渡への誇りをもてるようにする。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・日程内容等について講師との折衝・会場確保・スクールバスの手配 ・当日の進行、礼状の指導、送付
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年の総合的な学習の時間の1事業として年間指導計画に組み込む。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果 生徒が生き生きとした姿で参加し、講師の先生方からも生徒の意欲を賞賛してもらった。

○子どものメリット

面、和楽器、能舞台等、本物にふれることで佐渡の能すばらしさ、楽しさを体感することができた。

○地域や保護者のメリット

次世代に佐渡の能を伝えることで将来の後継者や協力者を育成する一助となった。

次年度に向けて

- ・「佐渡の能を識る会」とのつながりを切らないように、担当者から働きかけを大事にする。
- ・保護者にも案内を出して、参観ができるようにする。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立新穂中学校
氏名・年度 藤井 衛・62年度

1 自校の教育課題

- (1) ふるさと（新穂・佐渡）に誇りをもち、互いの良さを認め協力する力の育成
- (2) 体力の向上と心身の健康の増進
- (3) 自ら学び、考え、表現する力の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の分析

- 〈自校の強み〉
- (1) 学校教育に協力的な保護者が多い。
 - (2) 学校教育に協力的な地域民が多い。
 - (3) 戦後間もない昭和23年に創立された「新穂学校後援会」がいまだに続き、金銭的な援助を行っている。
- 〈自校の弱み〉
- (1) 地域のもつ教育的価値について、職員・地域の共通理解が図られていない。
 - (2) 地域の良さを学び、触れる機会、地域と連携する教育課程が十分に設定されていない。
 - (3) 地域連携を推進する組織、窓口が確立されていない。

3 地域教育プログラム1 取組の計画

活動名	地域組織の活性化
内容	既存の組織である学校後援会活動の見直し
自分の役割	教頭として、担当する学校後援会などの地域活動を見直す。
持続可能性の保障	下記通知の趣旨を踏まえて職員の負担軽減を考慮する。 ・県教委通知「平成28年度多忙化解消の取組について」（業務の精選、意識改革）

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
<ul style="list-style-type: none"> ○子どものメリット ・学校後援会の文書を届けることで地域での新しい発見があった。 ・後援会に対する感謝に気持ちが高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や保護者のメリット ・地域の子どもと触れあう機会が増えた。 ・子どもの活躍を楽しみにする人が増えた。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの活動が地域に活力を与えている。子どもが貴重な時代だからこそ、学校としてできることをよく考え、子ども、地域民、職員全てが元気になるような取組を推進していきたい。 	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立新穂中学校
氏名・年度 加藤順也・H15年度

1 自校の教育課題

- (1) ふるさと（新穂・佐渡）に誇りをもち、互いの良さを認め協力する力の育成
- (2) 体力の向上と心身の健康の増進
- (3) 自ら学び、考え、表現する力の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の分析

〈自校の強み〉

- (1) 25年以上継続している「新穂探訪」(学区を歩いて地域に触れる活動、1年総合)、公民館主催の「立志元服式」(立志発表)を開催している。
- (2) 新穂中学校同窓会(隔年で講演会開催、同窓会報発行)、新穂地区学校後援会(全世帯から会費を頂戴し、部活動補助等に支出)、新穂PTA協議会(新穂小・行谷小・新穂中で連携行事)、新穂地区青少年健全育成協議会等の支援組織がある。

〈自校の弱み〉

- (1) 地域のもつ教育的価値について、職員・地域の共通理解が図られていない。
- (2) 地域の良さを学び、触れる機会、地域と連携する教育課程が十分に設定されていない。
- (3) 地域連携を推進する組織、窓口が確立されていない。

3 地域教育プログラム1 取組の計画

活動名	立志元服式
内容	公民館主催の行事で、中学3年生が卒業を前に志を立て、代表生徒4名が発表し、3年生一人一人がその志を色紙に漢字1文字で表す儀式
自分の役割	複数担任制の3学年担任として、生徒一人ひとりの立志作成の質を高めること。代表者の発表を堂々としものにさせること。
持続可能性の保障	今年度の取組の反省をしっかりと、来年度以降の立志元服式をより、充実したものとさせるようきちんと引き継ぐ。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
○子どものメリット	○地域や保護者のメリット
次年度に向けて	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立畑野中学校
加藤雄一郎 (59年度)

1 自校の教育課題

・言われたことはできるが、周りのことを考えたり、自ら高めるために+αの行動を自主的に取り組んだりする面が弱い。「自立」し、自ら主体的に何事にも取り組む生徒の育成を継続していく必要がある。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

・言えば頑張る素直な生徒

弱み

・企業側へのアプローチ方法とその働き掛けの時間確保

地域や保護者のニーズ

・地域の活性化
・中学生の地域貢献や社会貢献、キャリア教育に対する意識高揚

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	課題解決型職場体験による企業貢献
内容	課題解決型職場体験を実施し、訪問企業と生徒のWin-Winの成長を目指す。訪問企業にとっては、企業課題（ミッション）に対して中学生からの新鮮なアイデアをもらい、企画に生かす。中学生の可能性に気付かせる。中学生にとっては、訪問企業の仕事内容や社会貢献を知り、ミッションに応える提案をして、企業に役立てる経験をする。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・みらいずワークス（NPO）との打合せ ・2年部・総合担当との調整、フォロー役 ・生徒への後方支援 ・次年度につながる職員や生徒への記録の蓄積、調整
持続可能性の保障	<p>企業と生徒への取組の耕しを行い、ミッション、活動、まとめを計画的に進める。時間をあまり掛けすぎないよう見通しを持って進める。</p> <p>文化祭で全校発表会を行い、1年生に次年度の職場体験のイメージを持たせる。</p>

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

<p>成果</p> <p>○子どものメリット 企業の仕事の使命を知り、企業課題（ミッション）に応え、発表できたことで、自己有用感と達成感を味わうことができた。</p>	<p>○地域や保護者のメリット 企業側も生徒の提案やアイデアを生かしてくれ、喜んでくれた。保護者も子どもの成長を感じてくれた。</p>
<p>次年度に向けて せっかくよい取組となったので、持続可能になるよう時間調整や役割分担をしていきたい。また、今回遠かった訪問先については近いところに変更して、この「課題解決型職場体験」をシステムチックな取組にしていきたい。</p>	

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立真野中学校
村山 貴之（平成16年度）

1 自校の教育課題

- ・奉仕する心を醸成したい。
- ・郷土の文化や伝統に触れる活動を組んでも、積極性が乏しい。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み <ul style="list-style-type: none">・地域が学校に協力的である。・教育の素材にできる材料が豊富。	弱み <ul style="list-style-type: none">・地域に向けて発信する機会が少ない。
--	--

地域や保護者のニーズ <ul style="list-style-type: none">・生徒たちの活動を、楽しみにしている。・文化に携わる生徒が一人でも多くなることを望んでいる。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	伝統芸能の伝承～文弥人形芝居の活動を通して～
内容	文弥人形芝居の活動を通して、地域の方々に元気を与える。
自分の役割	<ul style="list-style-type: none">・指導者との連絡を取り、練習や本番の日程等の調整をする。・生徒とともに練習を行い、演じている人物像を伝える。・台本を現代語訳したものを打ち込み、生徒に配付する。
持続可能性の保障	<ul style="list-style-type: none">・文弥人形は、真野中学校が取り組んでいる「総合郷土」で5月～10月まで週1回練習を行っている。文化祭や地区の芸能祭などで発表をしている。・指導者が地域におり、熱心に指導を行っている。指導者の高齢化が心配されていたが、今年度からは若い指導者の方も来てくださるようになった。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どものメリット <ul style="list-style-type: none">・自分たちの練習の成果を見てもらえる機会となる。・3年間継続して取り組むことで、人形の操作技術だけでなく、歴史的な背景についても理解が深まる。	○地域や保護者のメリット <ul style="list-style-type: none">・人形芝居を見て、文化に親しむ場となる。・日頃の子どもたちのがんばりを感じとることが出来る場となる。
次年度に向けて	現1・2年生は、次年度も文弥人形に取り組むことになっている。はじめはそれほど乗り気ではなかった生徒たちも、練習に取り組むことで文弥人形の歴史にも、演じている物語の時代背景にも興味をもっていく様子が見られる。また、今年度からは語り（三味線を演奏しながら台詞を吟じる）にも挑戦している生徒がいる。初めての年ということもあり、文化祭での披露は見送ったものの、意欲は非常に高いので、練習を重ねて自信をもって語ってほしいと思っている。

地域教育プログラム 実践シート

佐渡市立真野中学校
石川 雄一（平成18年度）

1 自校の教育課題

- ・奉仕する心を醸成したい。
- ・郷土の文化や伝統に触れる活動を組んでも、積極性が乏しい。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・地域が学校に協力的である。
- ・教育の素材にできる材料が豊富。

弱み

- ・地域に向けて発信する機会が少ない。

地域や保護者のニーズ

- ・生徒たちの活動を、楽しみにしている。
- ・文化に携わる生徒が一人でも多くなることを望んでいる。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 リコーダーで佐渡を元気に！

内容 佐渡のお年寄りや地域の方々等をリコーダーの演奏で癒す。

自分の役割

- ・他の学校とも連携を図りながら、当日の日程等の調整をする。
- ・生徒と話し合い、聴き手が喜ぶような内容を工夫する。
- ・リコーダーの技術指導を行う。

持続可能性の保障

- ・リコーダーは特設部として、10月の文化祭や11月末に行われるコンテストに向けて練習を行っている。
- ・他校の先生と打ち合わせを行い、病院側とも日程調整をしながら行う。

4 成果と次年度に向けての取組

成果

○子どものメリット

- ・自分たちの練習の成果を聴いてもらえる機会となる。
- ・感想をもらうことで、次の活動の意欲に繋がる。

○地域や保護者のメリット

- ・演奏を聴き、音楽に親しむ場となる。
- ・日頃の子どもたちのがんばりを感じとることが出来る場となる。

次年度に向けて

今回の演奏会を通して、入院中の患者さんや保護者・地域の方など多くの方が来場し、来場者から「演奏を聴いて癒やされました」「すてきな演奏をありがとう」と言葉がけをしてもらうことができた。この活動を継続していくために病院の方へ機会を与えてもらえるよう依頼を続けていくとともに、一緒に参加する他の学校とも密に連携を図っていきたい。また、今回の音楽会に向けて、病院の担当者の方が音楽会当日に院内にチラシを掲示してくださっていた。これを活用し、今後、学区を含む地域への宣伝を生徒たちの力でやるよう工夫をしたい。

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡市立赤泊中学校
氏名・年度 小川 裕人 (3)

1 自校の教育課題

- ・小規模校ならではの人間関係の固定化が見られる。
- ・困難に対して他者と協力しながら問題を解決しようとする意欲や態度がやや低い。

2 教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・1小、1中というごとで学校教育活動全般において協力的である。
- ・地域には多彩な人材が豊富である。

弱み

- ・地域に貢献する活動が少ない。
- ・地域の多彩な人材を活用する活動が少ない。

地域や保護者のニーズ

- ・地域を愛し、将来、ふるさどに戻って活動する子どもになってほしい。
- ・高齢化が進んでいる中、地域に貢献する活動を増やし地域の活性化を図りたい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	爪の沢キャンプ
内容	地域にある爪の沢キャンプ場まで、約7kmの山道を地区ごとに歩き、1泊2日の宿泊体験学習を実施する。その中で、「総合的な学習の時間」と関連付け、豊かな自然の中で地域の方を講師に招き、体験活動を行っている。
自分の役割	爪の沢キャンプ全般の企画・運営。
持続可能性の保障	毎年、行っている学校行事であり、地域多彩な人材を活用するよい機会である。

4 成果と次年度に向けての取組

成果	
○子どもへのメリット 地域の方との交流をとおして、地域のよさや伝統、歴史等を知ることができた。地域貢献への意識を高めることができた。	○地域や保護者のメリット 子どもとの交流をとおして、地域のよさや伝統、歴史等を伝えることができた。子どもと触れ合ういい機会となった。
次年度に向けて	
・公民館など、各機関と連携しながら地域の人材をより活用できるように工夫する。 ・子どもたちからも地域の方と触れ合う企画を考え、交流を深めたい。	

中等・特別支援学校 地域教育プログラム



地域教育プログラム 実践シート

学校名 県立佐渡中等教育学校
氏名・年度 嶋見靖之・60

1 自校の教育課題

- ・ 6年間を見通したカリキュラムの確立（特に1・2年生における学習習慣形成と社会性育成、3・4年における進路意識の高揚）
- ・ 郷土愛の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み

- ・ 地域・保護者が学校に協力的である。

弱み

- ・ 地域が広く、関心の温度差がある。

地域や保護者のニーズ

- ・ 佐渡や佐渡中等に誇りを持てる生徒を育成してほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	スクールカルチャー「能楽」
内容	7月の「本間家能舞台（2年のみ）」と12月の「能楽発表会（1～3年）」に向けて、講師を招へいして謡の稽古に取り組む。
自分の役割	県予算や助成金の確保 地域・保護者への参観案内
持続可能性の保障	年間指導計画が整備されており、学校評価に位置付けられている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
○子どものメリット 稽古の成果を発表でき自信となった。そして、能の文化的・歴史的魅力を感じ 取ることができ、郷土愛をはぐくむことができた。	○地域や保護者のメリット 伝統文化継承という地域の思いを実現する取組となった。また、学校独自の取組を保護者も誇りに感じていた。
次年度に向けて 取組の意義や良さをさらに味わえるよう、事前事後の活動を充実させる。また、発信活動をさらに充実させる。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 県立佐渡中等教育学校
氏名・年度 梶原 敦・H8

1 自校の教育課題

- ・ 6年間を見通したカリキュラムの確立（特に1・2年生における学習習慣形成と社会性育成、3・4年における進路意識の高揚）
- ・ 郷土愛の育成

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- 何事にも素直に取り組む生徒が多い。
- 地域・保護者が学校に協力的である。
- ▲ 受動的で、やや積極性に欠ける部分がある。
- ▲ 地域が広く、関心に温度差がある。

地域や保護者のニーズ

- ・ 佐渡や佐渡中等に誇りを持てる生徒を育成してほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	「能楽」
内容	7月の「本間家能舞台（2年のみ）」と12月の「能楽発表会（1～3年）」に向けて、講師を招いて謡の稽古に取り組む。
自分の役割	ガイダンス 講師とともに練習監督
持続可能性の保障	年間指導計画が整備されており、学校評価に位置付けられている。

4 成果と次年度に向けての取組（2月末に記入して提出）

成果	
○子どものメリット 普段の生活では触れることの少ない芸能を、身をもって体験することができた。 関心を持った生徒は、講師に弟子入りし、継続して学習できた。	○地域や保護者のメリット 能楽を佐渡の芸能として再確認することができた。
次年度に向けて 職員の役割分担を明確にし、それぞれが責任を持って生徒の育成にあたるような指導体制を確立する。	

地域教育プログラム 実践シート

学校名 佐渡特別支援学校
氏名・年度 山口 明美・58

1 自校の教育課題

- ・場面に合ったコミュニケーションを取ることが苦手である。
- ・学んだことを応用することが苦手で、ある程度できるまでに時間がかかる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

強み ・学区と行政区が同じ・障害者雇用での一般就労率はおおよそ4割と他校に比べて高い（全国平均30%前後）。・地域とかかわる活動が多く行われている。

弱み ・学区が広い・地域に還元・貢献できる活動とはなりにくい。

地域や保護者のニーズ

- ・自立と社会参加できる力を付けてほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名 将来の自立と社会参加につなげる校外学習・職場体験・現場実習等の取組

内容 将来の自立と社会参加のためには、コミュニケーション力が必要である。

その力を普段の授業や校外学習・職場体験・現場実習等で付けていきたい。

自分の役割 自立と社会参加につながる校外学習・職場体験・現場実習等の活動につないでいくための連絡・調整。

接続可能性の保障

- 学校と事業所、市役所福祉課等とは常につながっていることが必要不可欠。
- 地域と学校というより、人と人のつながりであるので、双方向の関わりを持ち続けられるように連携を強化していく。

4 成果と次年度に向けての取組（1月末に記入して提出）

成果

○子どものメリット

- ・清掃検定に新たな取組により、就労への基礎的スキルが身に付いた。

○地域や保護者のメリット

- ・地域の方々や保護者とのつながりが広がった。

次年度に向けて

- ・職業学習の中で、清掃検定への取組の時数を増やす。
- ・清掃検定参加対象の生徒の枠を広げる。

地域教育プログラム 実践シート

新潟県立佐渡特別支援学校
金杉 敦・59年度

1 自校の教育課題

- ・場面に合ったコミュニケーションを取ることが苦手である。
- ・学んだことを応用することが苦手で、ある程度できるまでに時間がかかる。

2 地域教育プログラム創出に向けての自校・地域の現状分析

自校の強み・弱み

- 強み**
- ・学区と行政区が同じ
 - ・障害者雇用での一般就労率はおよそ4割と他校に比べて高い（全国平均30%前後）。
 - ・地域とかかわる活動が多く行われている。
- 弱み**
- ・学区が広い。
 - ・地域に還元・貢献できる活動とはなりにくい。

地域や保護者のニーズ

- ・自立と社会参加できる力を付けて欲しい。卒業後は、就労してほしい。

3 地域教育プログラム1取組の計画

活動名	就労を目指した清掃技能向上の取組
内容	職業学習で清掃技能を高め、清掃検定に合格することにより、技能及び就労に向けた生徒の意欲の向上を図る。
自分の役割	清掃技能の指導。 校外の清掃場所の清掃許可を得る。 清掃検定会場への引率。
持続の可能性の保障	○高等部職員全員が検定種目の指導ができるように指導者研修会を開く。

4 成果と次年度に向けての取組（1月末に記入して提出）

成果	
○子どものメリット 職業学習で学んだ清掃技能を生かし、地域に認めてもらえた。	○地域や保護者のメリット 地域と関わりをもつこと、社会参加することができる。
次年度に向けて バス待合所以外の清掃場所を探し、清掃を実践する回数を増やす。	